未来へつなごう

コープデリグループは「未来へつなごう」をスローガンに、SDGs重点課題の目標達成に向け、取り組みを進めています。

「おいしい！」で未来へつなごう

コープの国産素材・産地指定

「家族には、安心できるおいしいものを食べさせたい」と、産地や商品の原材料をチェックしている方も多いのではないでしょうか。
私たちが国産を選ぶことは、日本の農畜水産業を応援することにつながります。

このマークが目印！

国産素材

主な原材料に国産素材を使用している商品シリーズです。組合員の皆さんの「国産素材を使った商品を積極的に利用したい」という願いに応え、マークを付けて選びやすくしました。

例えばこんな商品

CO・OP 大豆ドライパック

声

とてもおいしいです。パウチで手軽、場所も取らないしごみも捨てやすい。サラダ、ひじき煮、キーマカレーなどに入れています。

CO・OP ふっくら卵のオムライス

声

冷凍なのに卵がふわふわで、とってもおいしかったです。レンチンで手軽で、子どもたちのお弁当にもちょうどいいです。

このマークが目印！

産地指定

主要な原材料に、産地や栽培方法が明らかな国産素材を使用している商品シリーズです。単に原材料の産地を指定するだけではなく、利用・交流・コミュニケーションを通して、産地との信頼関係をつくっています。

三つの条件

1. 産地（生産者または生産者団体）指定で栽培方法が明らか
2. 産地の訪問点検により、品質・安全性の確認ができる
3. 産地とのコミュニケーションが取れる

CO・OP 九州の芋けんぴ

声

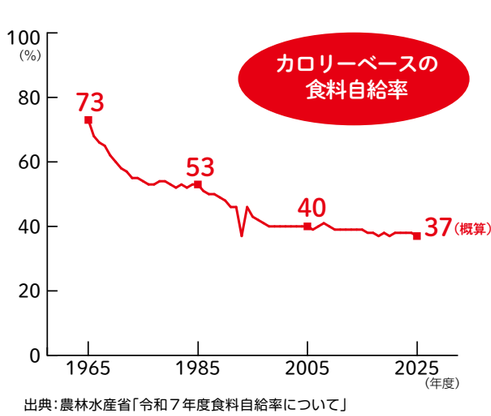
息子も私も大好きで、つい食べ過ぎてしまうほどおいしいです。甘すぎず油くさくなく、カリカリなのに軽いです。

例えばこんな商品

CO・OP 北海道のつぶコーン

声

北海道のとうもろこしは粒の一つ一つがぶっくりしていて甘くておいしい！　チャックシール付きなのも便利です。



出典：農林水産省「令和７年度食料自給率について」

日本の農畜水産業を取り巻く環境

私たちが消費した食料のうち、どれだけ国内で自給できているかを示す指標を食料自給率といい、日本の食料自給率は37%（カロリーベース）です。諸外国の中でも低い水準で、約6割を輸入しています。

食料を輸入に頼っていると、例えば輸出元の国で災害や紛争があると食料が不足し価格が高騰するなど、さまざまな問題があります。また海外から食料を輸送するために多くのエネルギーを使い、環境への負荷もかかります。国産の食品を増やすことが必要ですが、日本の農畜水産業は「地球温暖化」「生産コストの上昇」「担い手不足」など、多くの課題を抱えています。

毎日の「おいしい！」が産地の未来を育む力に

コープ商品では長年にわたり、国産原料を使った商品や原料の産地が明らかな商品の開発に力を入れてきました。それは、組合員の皆さんの「国産の原料を使った商品を食べたい」という声があったから。そして、国産の原料を使うことで日本の農畜水産業の応援につながるからです。産地とつながり、おいしく食べることが、生産者への応援と産地の未来につながります。

コープ商品の担当者に聞きました！

日本生活協同組合連合会 第一商品本部 冷凍食品部
凍菜・アイスグループ　仲村（なかむら） 潤（じゅん） さん

日本で流通する冷凍野菜のほとんどは海外産ですが、コープでは北海道や九州などを産地とした冷凍野菜を取り扱っています。産地や工場を定期的に訪問し、栽培管理の情報を共有したり、工場の衛生状態をチェックしたりしています。組合員の皆さんから届いた声もお伝えしているので、生産者の皆さんにもとても喜ばれていますよ。

今年の北海道は夜の気温が低く、“北海道らしい”気候でしたが、ここ数年は猛暑で生産者の方はとても苦労されていました。また産地によっては後継者が不足しているところもあります。さまざまな工夫を経てつくられた国産の商品を、できるだけ使いやすいかたちで提供していきたいと思いますので、たくさん食べてもらえるとうれしいです。